## 電磁気学II演習 テスト8

## 氏名 学籍番号

1. 以下の に当てはまる式を記入せよ。(同じ番号の欄には同じ式が入る ので、一つの欄にだけ記入すれば良い。)

半径 R の無限に長い円筒の内部に一様な密度  $\rho$  で分布した電荷による電位を、 ポアソンの方程式を解くことにより求めてみよう。ただし境界条件として、円 筒の側面上の点における電位  $\phi(r)$  を 0 とする。

円筒の中心軸をz軸とする。電荷の分布が軸対称だから、それによって生じる 電位も軸対称となり、中心軸からの距離rだけの関数 $\phi(r)$ として与えられる。 このとき、

$$\nabla^2 \phi(r) = \frac{1}{r} \frac{d}{dr} \left\{ r \frac{d\phi(r)}{dr} \right\} \tag{1}$$

が成り立つ。よって、ポアソンの方程式は

$$r > R \mathcal{O} \ \ \, \stackrel{?}{\underset{}} \ \, \frac{d}{dr} \left\{ r \frac{d\phi(r)}{dr} \right\} = \boxed{1} \tag{2}$$
$$r \le R \mathcal{O} \ \ \, \stackrel{?}{\underset{}} \ \, \frac{d}{dr} \left\{ r \frac{d\phi(r)}{dr} \right\} = \boxed{2} \tag{3}$$

$$r \le R \, \mathcal{O} \, \xi \, \mathfrak{F} \qquad \frac{1}{r} \frac{d}{dr} \left\{ r \frac{d\phi(r)}{dr} \right\} = \boxed{2} \tag{3}$$

r > Rのとき、(2) 式を積分して変形すると、 $C_1$  を積分定数として、次式を 得る。

$$\frac{d\phi(r)}{dr} = \frac{C_1}{3} \tag{4}$$

 $r \leq R$  のときは、(3) 式の両辺に r を掛けてから積分すると、 $C_2$  を積分定数と して、

$$\int \frac{d}{dr} \left\{ r \frac{d\phi(r)}{dr} \right\} dr = r \frac{d\phi(r)}{dr} = -\frac{\rho}{2\varepsilon_0} r^2 + C_2$$

$$r を移項して$$

$$\frac{d\phi(r)}{dr} = - \boxed{+\frac{C_2}{r}}$$
(5)

裏に続く

r=0 (中心軸上) で、電場すなわち電位の微分係数  $d\phi(r)/dr$  は 0 でなければな らないので、(5) 式にr=0を代入すると

$$\frac{d\phi(r)}{dr} = -\frac{\rho \times 0}{2\varepsilon_0} + \frac{C_2}{0} = 0$$

$$\therefore C_2 = 0$$

$$\therefore \frac{d\phi(r)}{dr} = -\boxed{\textcircled{4}}$$
(6)

また、r = R (円筒の側面上) で、 $d\phi(r)/dr$  が連続である必要から、(4)、(6) 式 から

$$\frac{C_1}{R} = -\frac{\rho}{2\varepsilon_0}R$$

となり、

$$C_1 = -\rho R^2 / 2\varepsilon_0$$

$$\therefore \frac{d\phi(r)}{dr} = \boxed{\$}$$
(7)

したがって、(6)、(7) 式を積分すると、

$$r \leq R \mathcal{O} \, \xi \, \stackrel{\stackrel{\circ}{>}}{=} \qquad \phi(r) = \int \left( -\stackrel{\bigcirc{}}{-} \stackrel{\bigcirc{}}{=} \right) dr = \stackrel{\bigcirc{}}{=} \qquad + C_3$$

$$r > R \mathcal{O} \, \xi \, \stackrel{\stackrel{\circ}{>}}{=} \qquad \phi(r) = \int \left( \stackrel{\bigcirc{}}{=} \right) dr = \stackrel{\bigcirc{}}{=} \qquad + C_4$$

$$(9)$$

$$r > R$$
 のとぎ  $\phi(r) = \int \left( \boxed{5} \right) dr = \boxed{7} + C_4$  (9)

(8) 式の結果に $\phi(R) = 0$ という条件を入れると、

また、(9) 式の結果に  $\phi(R) = 0$  という条件を入れると、

$$-\boxed{\textcircled{0}} + C_4 = 0 \quad \therefore C_4 = \boxed{\textcircled{0}}$$

$$\therefore \phi(r) = \boxed{\textcircled{0}}$$

を得る。